

所員の研究、試験および検査に関する発表を主とする「衛試例会」は、昭和26年から原則として毎月第2火曜日、第一会議室において開催されているが、平成7年度に行った演題は次のとおりである。

第380回 (平成7年4月11日)

- 食品種類別におけるフモニシンの分析法の検討
食品部 穂山 浩
- 共同利用機器 600 MHz NMR の特徴と限界
—傾斜磁場 NMR を利用した色素成分の構造解析から—
食品添加物部 合田 幸広
- ポリウレタンの発癌性の要因の解析に関する研究
療品部 土屋 利江
- 白血球の活性化機構における蛋白質リン酸化/脱リン酸化の役割
代謝生化学部 鈴木 和博

第381回 (平成7年5月9日)

- 木製品中のホルムアルデヒドについて
食品添加物部 河村 葉子
- ホスファチジルエタノールアミン *N*-メチル化を介する肝 VLDL 分泌低下機構—血清脂質低下薬フィブラート類の新規作用機構
代謝生化学部 最上 知子
- オピオイド結合タンパク (OBCAM) のラットにおける発現
機能生化学部 蜂須賀 暁子

第382回 (平成7年6月13日)

- 農産物中の有機塩素系農薬およびピレスロイド系農薬の同時分析法の検討
食品部 根本 了
- ポリスチレン製品の溶出試験におけるオリーブ油中のスチレンおよびエチルベンゼンの分析
食品添加物部 杉田 たき子
- 防かび剤 *N*-(fluorodichloromethylthio)-phthalimide のラットを用いた28日間反復経口投与毒性試験
毒性部 松島 裕子
療品部 五十嵐 良明
- 天然甘味料 Stevioside 投与によるラットの腸上皮および腸内の細菌叢への影響
病理部 豊田 和弘

第383回 (平成7年7月11日)

- K562 細胞の赤芽球分化過程におけるヘム合成調節機構について
生物薬品部 川崎 ナナ
- 超臨界流体抽出による農産物中の残留農薬分析に関する基礎的検討
食品部 根本 了
- 市販パプリカ (トウガラシ) 色素中の色素成分の分析と同定
食品添加物部 合田 幸広
- MNUR 誘発ハムスター肺炎病変における巨大異型上皮細胞の超微形態学的特徴および細胞増殖活性
病理部 安原 加壽雄

第384回 (平成7年9月12日)

- γ線照射によるマイクロソフェアの薬物放出速度の制御
薬品部 吉岡 澄江
阿曾 幸男
- ラット株化好塩基球性白血病細胞 (RBL-2H3 cell) を用いた儀アレルギー反応系: 小胞体 Ca²⁺ ATPase 阻害剤, 2,5-ジ(*tert*)ブチルヒドロキノンによる細胞内 Ca²⁺ 量上昇は, ホルボールエステル存在下でのみ, ヒスタミン遊離を引き起こした。
毒性部 北嶋 聡
- アルデヒド類のモルモットにおける皮膚感作性ならびに交差反応性の構造活性相関について
毒性部 門馬 純子
- CASA-System (HIM-IVOS) を用いた精子試験 I. α-chlorohydrin
毒性部 川島 邦夫
- ラット初代培養肝細胞における DNA 損傷による P53 蛋白の誘導に及ぼすペルオキシゾーム増殖剤の影響
毒性部 高木 篤也

第385回 (平成7年10月17日)

- ニフェジピンの結晶化速度に及ぼす添加剤の影響
薬品部 阿曾 幸男
吉岡 澄江
- 陰イオン交換クロマトで分画した組換え EPO の糖鎖構造と生物活性およびその改変
生物薬品部 森本 和滋
- ヘマトポルフィリンの UV 増感による溶血と紫外線吸収剤の評価
環境衛生化学部 内野 正

第386回 (平成7年11月7日)

- 大腸菌を用いたオピオイド結合タンパク (OBCAM) の発現
機能生化学部 中島 治
- ヒト成長ホルモン結合蛋白の生成機構
機能生化学部 斎藤 嘉朗
- 魚粉および亜硝酸の同時投与によるラット腎腫瘍の発生
病理部 古川 文夫

第387回 (平成7年12月12日)

—特別例会—

- はじめに—企画のねらい—
大阪支所長 武田 寧
- 特別コメント
ICH 枠組み—背景・経過・ならびにその成果—
薬務局審査課 成川 衛
- 不純物規格と分析バリデーション
薬品部 小嶋 茂雄
- バイオ医薬品: 細胞基材/遺伝子安定性/ウイルス安全性/製品安定性
生物薬品部 早川 堯夫
- 癌原性試験の問題点と合意点
病理部 高橋 道人
- 遺伝毒性試験
変異遺伝部 祖父尼 俊雄

7. バイオ製品に関する安全性試験
 毒性部 井上 達

第 388 回 (平成 8 年 1 月 9 日)

1. ラット初代培養肝細胞におけるグルコシルコリド受容体のチロシンキナーゼによる調節
 生物薬品部 新見 伸吾
2. HL-60 細胞における M-CSF レセプター高発現細胞株の樹立
 生物薬品部 春日井 勲
3. 臭素酸カリウム投与によるラット腎 DNA 中の 8-hydroxy deoxyguanosine 生成における性差について
 毒性部 梅村 隆志
4. チオウレアとビタミン A 複合投与ラットにおける甲状腺腫瘍発生促進メカニズム
 病理部 三森 国敏

第 389 回 (平成 8 年 2 月 13 日)

1. 増殖停止特異遺伝子 eti-1 の構造と機能
 変異遺伝部 増井 徹
2. Oxfendazole 反復投与ラットにおける肝 P450 アイソザイムおよびコネクシン 32 の変動
 病理部 小野寺 博志
3. Cancer risk assessment by a mediumterm carcino-

genicity bioassay using repeated administration of D-galactosamine

病理部 金 亨 津

4. 抗真菌活性評価に影響を及ぼす細胞要因
 衛生微生物部 高 鳥 浩 介

第 390 回 (平成 8 年 3 月 12 日)

1. 好塩基球細胞の Ca²⁺ 応答および leucotriene C₄ 遊離に対する Ca²⁺-ATPase 阻害剤の影響
 機能生化学部 赤坂 玲子
 手島 玲子
2. FISH 法によるヒトおよび高等霊長類の核型進化に関する研究
 変異遺伝部 田 辺 秀 之
3. Sulfadimethoxine (SDM), propylthiouracil (PTU), potassium thiocyanate (KSCN) および phenobarbital (PB) によるラット甲状腺腫瘍誘発に及ぼす vitamin A (VA) 同時投与の影響
 病理部 竹川 潔
 三森 国敏
4. 鉄ニトリロ三酢酸が引き起こすラット腎酸化的ストレスに対するチオール化合物の抑制効果
 毒性部 梅村 隆志

支 所 例 会

第 142 回 (平成 7 年 4 月 25 日)

1. 日本薬局法における計量単位の SI 国際単位化について
薬品試験部 岡田 敏 史
2. モノブチルスズ, ジブチルスズおよびトリブチルスズ
における発生毒性の比較
生物試験部 江 馬 真
3. スクアレンの生体影響に関する研究
食品試験部 中 村 優美子

第 143 回 (平成 7 年 7 月 4 日)

1. 茶葉中のピレスロイド系農薬およびそれらの加水分解
物 PBA の系統的分析法
食品試験部 津 村 ゆかり
2. 中枢神経系幹細胞としての性質を示す樹立細胞株
生物試験部 天 野 博 夫
3. ヒアルロン酸の物性と応用
薬品試験部 四方田 千佳子

第 144 回 (平成 7 年 9 月 26 日)

1. 遺伝子治療薬, アンチセンス薬の創製におけるバイオ
ブリット化技術の応用
薬品試験部 谷 本 剛
2. アゾ系食用タール色素中の未反応原料, 反応中間体お
よび付随色素の高速液体クロマトグラフィーによる定
量
食品試験部 石 光 進
3. ウシプロスタグランジン E 受容体 EP3D の第 7 膜貫
通領域に存在するアルギニン残基とアゴニストのカル
ボン酸との相互作用について
生物試験部 原 園 景

第 145 回 (平成 7 年 10 月 24 日)

1. タンパク質医薬品の分子修飾による安定化戦略
薬品試験部 前 川 京 子
2. 新しい食品衛生管理手法 HACCP について
食品試験部 柴 田 正
3. サイトカイン産生を生体反応指標とする発熱性物質検
出システムの構築—その意義と特長について—
生物試験部 村 井 敏 美

第 146 回 (平成 7 年 12 月 19 日)

1. Group Ware “Lotus Notes” 入門
支 所 長 武 田 寧
2. 金属によるヒアルロン酸の分子量変化について
薬品試験部 宮 崎 玉 樹
3. タイ国食品衛生強化プロジェクトにおける食品衛生お
よび残留農薬の分析技術協力に関する活動報告
食品試験部 外 海 泰 秀

第 147 回 (平成 8 年 1 月 23 日)

1. 熱分析法の医薬品の品質評価試験への応用
薬品試験部 岡 田 敏 史
2. エタノールによるリポソーム膜の透過性亢進機構—指
組み構造相の形成による膜の相分離—
薬品試験部 小 松 裕 明
3. プロピオン酸テストステロンの純度試験
薬品試験部 吉 井 公 彦
4. 電気化学検出器を用いた抽出トコフェロールの逆相
HPLC について
食品試験部 辻 澄 子
5. エンドトキシンに関わる諸問題: 対応状況と今後の展
望
生物試験部 小 川 義 之

 特別講演会

- 平成7年4月25日
Cell adhesion to biomaterial surfaces under well-defined flow conditions
University of Delaware Prof. Stuart L. Cooper
- 平成7年7月20日
モデルを用いた化学物質の環境動態予測の現状と今後
三菱化学安全科学研究所 吉田 喜久雄
- 平成7年9月8日
Poly(ADP-ribose)lation のDNA修復における役割とその生理的機能
スタンフォード大学 佐藤 政彦
- 平成7年9月21日
動脈硬化の生化学・形態学的解析
帝京大学教授薬学部教授 高野 達哉
- 平成7年9月26日
安全と安心, そして輝き—北欧・北米そして日本で考える
朝日新聞論説委員 大熊 由紀子
- 平成7年9月27日
糖鎖の機能を求めて
三菱生命研究所長 永井 克孝
- 平成7年10月25日
老化研究における霊長類の重要性
筑波医学実験用霊長類センター長 吉川 泰弘
- 平成7年11月15日
「抗体触媒」免疫システムを利用した機能性タンパク質の創製
- 蛋白質工学研究所 藤井 郁雄
- 平成8年1月19日
膜融合リポソームとその遺伝子治療等への応用
大阪大学薬学部教授 真弓 忠範
- 平成8年1月31日
ヒトにおける薬物体内動態の予測: *In vitro*, データを基にした, バイオアベイラビリティ, 薬物間相互作用の予測
東京大学薬学部教授 杉山 雄一
- 平成8年2月2日
Modulation of Cell-Cell Communication by Tumor Promoters, Growth Factors, Oncogenes During Carcinogenesis: Role of Oxidative Stress and Signal Transduction
ミシガン州立大学教授 James E. Trosko
- 平成8年2月6日
日本における動物実験の在り方—北欧と日本の倫理感の相違
国立精神・神経センター武蔵病院部長 埜中 征哉
- 平成8年2月27日
Analyses of Roles of the UmuDC Proteins of Escherichia coli in SOS mutagenesis and Cellular Physiology
MIT, USA Prof. Graham C. Walker
- 平成8年3月27日
Spontaneous and Radiation-induced Instability in Telomere-like Repeat Sequences in the mouse
英国・放射線防護庁 Dr. Simon Bouffler

 支所特別講演会

- 平成7年11月21日
研究支援としてのインターネット
大阪大学薬学部衛生化学教室 那須 正夫